

プレスリリース

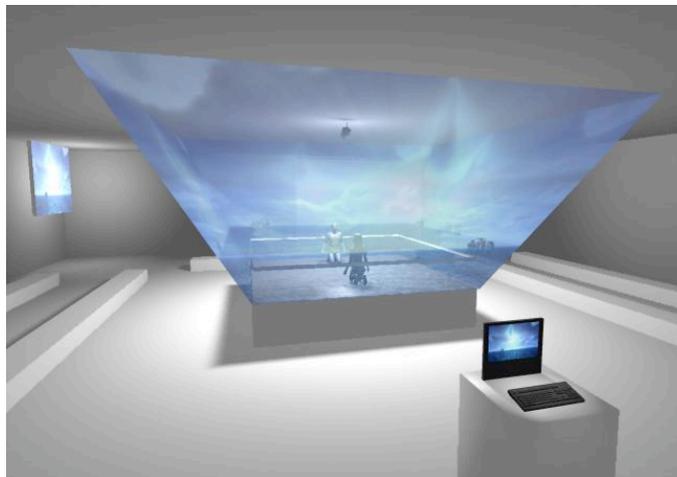
山口情報芸術センター(YCAM) presents

AYA モジュール 1

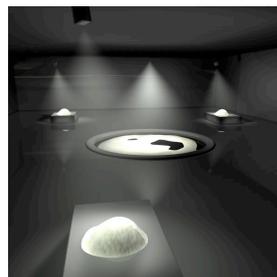
日時：9月10日(金) 19:00 開演／11日(土) 14:00 開演

※11日終演後にシンポジウムを開催。

会場：山口情報芸術センター スタジオ A



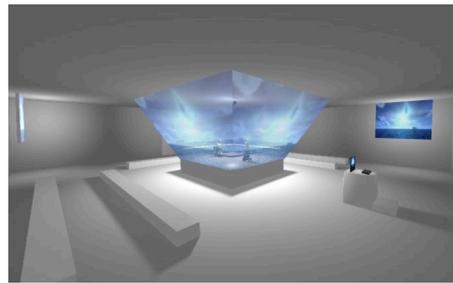
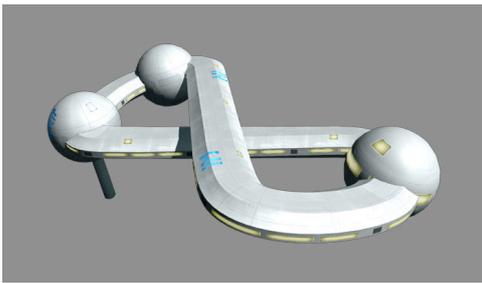
「AYA モジュール 1」は、観客がチャットによるコミュニケーションにより作品に参加することができるインタラクティブ（双方向的）なパフォーマンス公演です。デジタル・イメージによる映像とダンスが組み合わされた各シーンを自由に選択し、物語を進行させます。海外で評価の高い日本のポップカルチャー、テレビゲームやアニメーションなどをモチーフに、フランス人アーティスト、ケイコ・クールディと彼女のカンパニー・KIにより、新しいタイプのミクストメディア・パフォーマンスとして、今回日本にて初演されることになりました。また、この作品は今後展開される予定の5部編制「モジュール AYA」インスタレーション・パフォーマンスの第1部となっています。



ストーリー：

主人公・タオは、無重力空間宇宙ステーション『AYA』で試験的に誕生し、成長した10歳の少年です。彼はミュータントで超能力を持ち、身体は無重力空間で浮くように適応していました。彼は強靱な精神パワーを発達させ、多発しているマインドハッキングから人の精神を守るプログラムに参加することになります・・・

この物語は、人間が発達する上でのテクノロジーとのインタラクトによる新しい身体の可能性についてイメージされたものです。



舞台装置について：

中央に四角のステージを設置。観客は、その周りを動き回ることができます。

ステージの四方に、半透明のスクリーンが張ってあります。スクリーンには、4台のプロジェクターから映像が映し出されます。2台のカメラ(1台は天井からステージを、もう1台は側面より)が、ダンサーを映し出します。このヴィジュアルが、デジタル・イメージとミックスされ、再度スクリーンに映し出されます。観客席中央にコンピューター、別のスクリーンとプロジェクターを設置し、彼らが見たいシーンをリクエストできるようにします。

ダンサー2人は、リング中央で8シーンを踊り、また観客によってリクエストされたシーンを再現します。

シンポジウム：

「日本とフランスにおけるミクストメディア・パフォーマンスについて」

日時：9月11日(土) 公演終了後

モデレータ：河原崎貴光(京都造形芸術大学芸術学部 映像・舞台芸術学科助教授)

スピーカー：フランク・ボシャル(フランス文化省)

藤本隆行(ダムタイプ)

ケイコ・クールディ(KI代表)

マリー・ガイエ(アートクリティック・KIコミュニケーションディレクター)

このシンポジウムは、世界の中で、特に日本とフランスにおける、テクノロジーを取り入れた、「ミクストメディア・パフォーマンス」の新しい動向を紹介するものです。



ケイコ・クールディ：フランス人アーティスト。8歳から演劇活動を開始し、いくつかのプロジェクトに参加。パリ第3大学にて演劇・映画修士課程を、東京大学大学院にて総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程を終了。博士論文は、日本における現代パフォーマンスについて。

東京に6年間在住経験があり、94～96年の3年間、劇団オノマトピアを主宰。

他の日本人アーティストとの活動や、林泉寺や鉄仙会能楽研究所などでも公演。

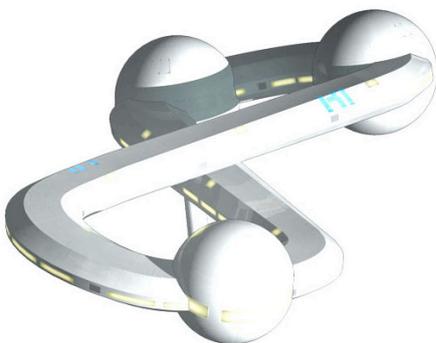
2000年にKI（NPO/アソシエーション・ロワ1901）を設立。

テクノロジーの発達が、知覚にもたらす新しい可能性に興味を持ち、3D、ビデオプロジェクションやデジタル・メディアを使い、新しいタイプのパフォーマンスの演出活動を行っている。

01年より、フランス文化省のメディア・アートのために設置された新しいプロジェクト組織「DICREAM」に支援されている。

京都造形芸術大学芸術学部 映像・舞台芸術学科助教授 Mixed media 担当。

<http://www.ki-keiko.net>





KI について

KI は、2000 年にケイコ・クールディによって設立された「トランス・ディシプリナリー・カンパニー」です。

KI は、演劇、ダンス、音楽、建築、ビデオ、3D アニメーション、モーション・キャプチャー、インターネットの分野に興味のある、ヨーロッパと日本アーティストやエンジニアを集めたものです。

KI は、俳優、ダンサーや観客の存在する現実世界と、ヴァーチャル世界との相互作用を映し出す演出をしています。

機械のテクノロジーは、限界と新しい感覚を感じる空間を追求する身体テクノロジーに遭遇します。コンピューターは、身体の延長部分になっています。

KI にとって、デジタル世界の探求は、身体にとっての新しい可能性を想像することを可能にします。肉体は光になります。パフォーマンスやインスタレーションを通して、KI は、現実空間の知覚、特に目に見えない敏感な「気」の感覚を磨き、深めようと努めています。

KI は、5 モジュール編製の AYA インタラクティブ・インスタレーション・パフォーマンスのプロジェクトを現在進行中です。

三次元空間によるプレゼンテーション DVD が、03 年 11 月に完成予定。

AYA モジュール 2 は、04 年 2 月～3 月にカナダ・モントリオール市にて、*SAT (アート・テクノロジーの社会)主催のエキスポにて紹介。

また、04 年フランス・クレティユ市主催フェスティヴァル・エクジットにも参加予定でプロジェクトを進めています。

<http://www.ki-keiko.net>

■概要

AYA モジュール 1

日時：9月10日(金) 19:00 開演／11日(土) 14:00 開演

※11日終演後にシンポジウムを開催。来場のお客様はそのままご覧いただけます。

会場：山口情報芸術センター スタジオ A

料金(全席自由)：一般 3,000 円 any 会員等割引/学生 2,000 円 学生 any 会員 1,500 円

チケット取扱：

チケット予約電話(10:00～19:00 休館日を除く)：083-920-6111

ローソンチケット：0570-063-006 Lコード: 64914

※A 席割引は、エニー会員、青少年(18 歳未満)、シニア(65 歳以上)、障害者及び同行の介護者 1 名が対象。エニー会員証、年齢の分かるもの、障害者手帳等をご呈示ください。

託児：要予約・1 人 500 円／2 人目以降 300 円 ご希望の方は 9 月 3 日までにチケット予約電話へお申し込み下さい。

※未就学児のご入場はご遠慮ください。

※当日は会員割引の対象外となります

主催：財団法人山口市文化振興財団

助成：財団法人地域創造

後援：山口市、山口市教育委員会

協力：(財)伊丹市文化振興財団

企画制作：山口情報芸術センター

<山口情報芸術センター(YCAM)へのアクセス>

JR 新山口駅から

- ・JR 山口線湯田温泉駅下車、徒歩 20 分／タクシー5 分
- ・JR 山口線山口駅下車、徒歩 20 分／バス 10 分(中園町か済生会病院前下車)／タクシー5 分
- ・防長バス 25 分、中園町下車

自動車利用

- ・山陽自動車道で防府東 IC から 30 分
- ・九州・中国自動車道で小郡 IC から 15 分

<お問い合わせ>

山口情報芸術センター(広報担当:小滝)

山口県山口市中園町 7-7 〒753-0075

TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

info@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>